

# 海の植林技術開発

(予算区分 県単 研究期間 平成20年～22年度)

担当：伊豆分場

## 【研究の背景とねらい】

榛南海域の磯焼け回復のために、カジメ群落が回復しつつある坂井平田沖から御前崎沖へのカジメの移植が考えられますが、そのためにはカジメの再生産を阻害している浮泥の対策が必要です。そこで、浮泥の多い榛南海域でも天然採苗によるカジメ移植を行うことができるブロックを開発します。また、内浦湾をはじめとした伊豆半島の西岸のガラモ場衰退域で、藻場回復の必要性が高まっていますが、ガラモ場衰退域では母藻が無いため、母藻を供給するために中層網方式によるホンダワラ類母藻供給技術を開発します。

## 【これまでに得られた成果】

- ・浮泥は遊走子へ吸着等により基質への着生・生育を阻害するため、浮泥堆積の対策として凹凸加工をした試験ブロックを作成し坂井平田沖に設置しました。試験ブロックと周辺岩盤等の間でカジメ幼体の発生状況を比較することで、着底基質の形状の効果を明らかにします。
- ・沼津市平沢地先において、2枚の網の間にマメタワラ母藻を挟み中層に浮かせた結果、2ヶ月程度中層で形状を保持し波浪等による影響は見られませんでした。成熟した母藻から遊走子が放出されたと考えられますが、ガンガゼ等の食害により幼体の発生は確認できませんでした。
- ・ガンガゼの食害を防除するために10m×10m区画を土嚢袋やシート等で包囲しましたが、1ヶ月で約1500個が侵入し効果はみられませんでした。古刺網を束ねフェンス状にして包囲したところ、1ヶ月間の侵入数は100個以下となり侵入防止効果が認められました。



凹凸加工をした浮泥対策ブロック



中層網方式によるマメタワラ母藻の供給

## 【期待される成果】

- ・浮泥対策ブロックにより榛南海域内での移設が可能になり、磯焼け対策がより推進されます。
- ・中層網方式によるホンダワラ類の母藻供給が可能になり、伊豆半島西岸のガラモ場衰退域だけでなく、御前崎海域での磯焼け対策に応用できます。

## 【今後の計画】

- ・浮泥対策カジメ用ブロックの開発  
カジメ発生密度調査（平成20～21年度） 水槽実験（平成20～22年度）  
試作ブロックによる現場実験（平成20～22年度）
- ・中層網方式によるホンダワラ類母藻供給技術の開発  
造成適正種の選択（平成20～21年度）  
耐久性と藻場造成効果の確認（平成21～22年度）

(作成 平成 21年4月)